

大野平野にフットパスを作ろう

地域の活性化のカギは、
来訪者に滞留してもらおうこと。
そのためには車から降りて、
地域を歩いてもらうこと。

フットパスの目的



- 来訪者を呼び込む
- 来訪者を車から離してこの地に**滞留**してもらおう
- 歩くことによって**土地の人**と話を**する機会**を設ける
- この地域を**知**ってもらおう
- **リピーター**になってもらおう
- **最終目標** → **サポーター**になってもらおう

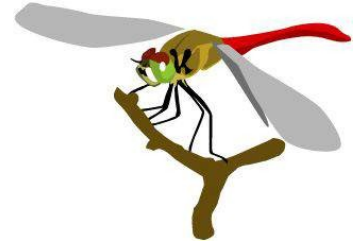
キーワードは

ファン

この地域を好きになってもらう

フットパス成立のための前提

- 来たくなるような場所であること
 - ✓ 初期の段階では来たいと思うような演出が必要
- 目的となるものが存在すること
 - ✓ 自然 → 風景、生きもの、季節感、
 - ✓ 食 → 知る、見る、食す、持ち帰る、
 - ✓ 体験 → 発見、感動、満足感、
 - ✓ 人 → コミュニケーション、



キーワードは

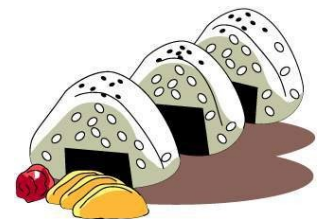
口コミ

人が一番信用する情報源は口コミ



フットパスの活用方法

- 道すがらこの地の産品に関心を持ってもらう**演出**が必要
- 地場産品に関連する店舗や施設を**さりげなく**コースに組み入れる
- **食**に関する店舗を**昼食時**に通過するようなコースを設定する
- **トイレ**があって、**地場産品**が買えるようなところをコースの**終点**にする



フットパスの構築について その1

・ テーマを設けてコースを設定する

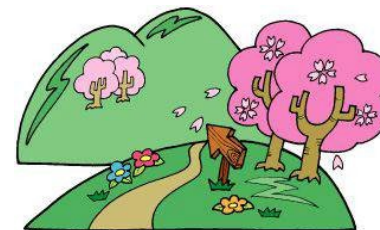
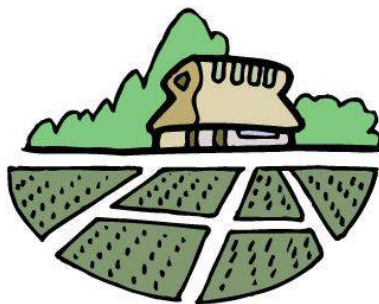
✓ **観察** → 田、畑、水路、林、川、池、

✓ **風景** → 田園、畑、社、林、池、

✓ **季節** → 春、夏、秋、冬、

✓ **体験** → 田植え、稲刈り、果物狩り、釣り、

✓ **知る** → 土地、歴史、特産物、人、



フットパスの構築について **その2**

・ **ルールを設定する**

- ✓ 所有者の権利を侵害しない
- ✓ 利用者の**自己責任**・**自己管理**が大原則
- ✓ 所有者の管理責任を問うことを一切しない
- ✓ 在るものは在るがままに、「何も残さない」
「何も変えない」「動かしたものは必ずもとの状態に戻す」
- ✓ コースや**土地を荒らさない**こと
ゴミのポイ捨てやペットの糞の放置などは論外の行為である



フットパスの構築について **その3**

• 地域の協力が不可欠

- ✓ 来訪者を暖かく迎えらるること
- ✓ 利用者にこの地のことを話せること
- ✓ この地をPRしたり特産品の紹介ができること
- ✓ 急病などの緊急時にサポートできること



フットパスに囚われないこと

- **フットパスが全てではない**

- ✓ やり方は他にもある

- ✓ もっと良いやり方が見つければ
それも選択肢のひとつである

- ✓ こだわりすぎると もっと大切なものを見失ってしまう

どうやって作るか

- やりたいという人をまず集める
- 各自が出来ることを持ち寄る
- アイテムが必要なときは
アイテムの所有者を仲間にする
- 反対者には無理強いしない
やりたい者だけでやる
「この指とまれ方式」がベスト

フットパスマップの作成と コース整備に向けて

金をかけずに知恵を使おう！
今あるものを積極的に活用しよう！
協力者を募ろう！

フットパスマップの作成

• その1 「グッズを準備する」

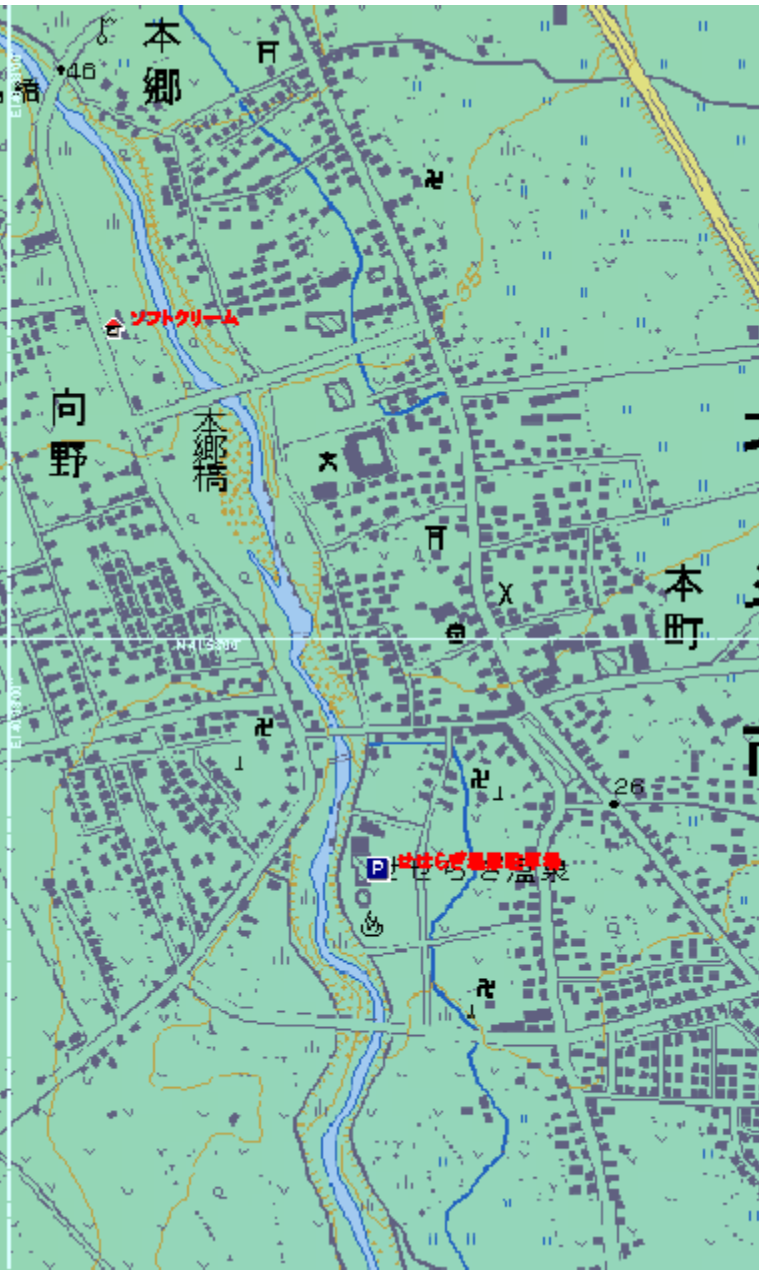
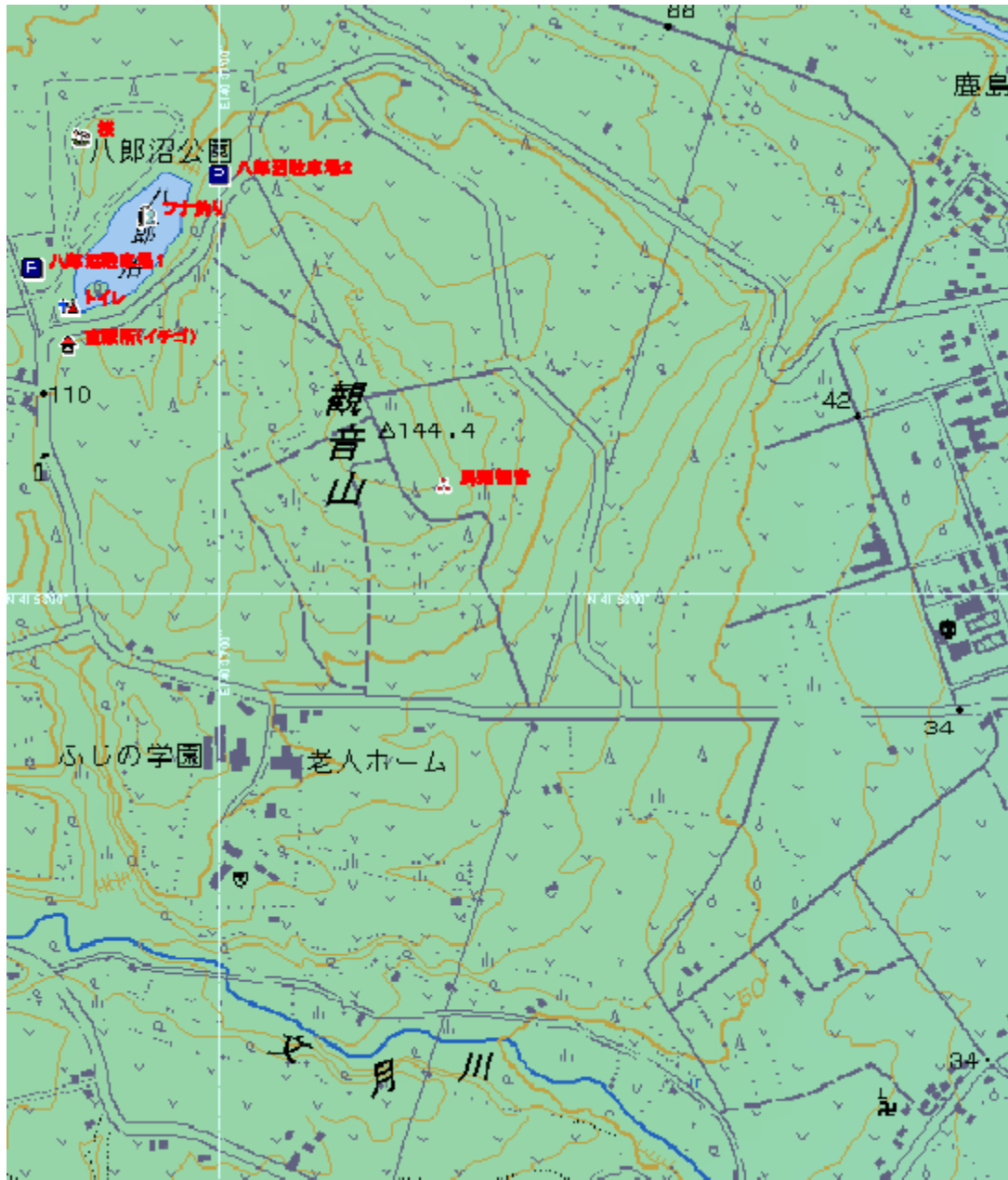
✓ ベースの地図を用意する。今はインターネットでたいていのものは手に入る。

✓ デジカメやGPSを持っている人を仲間に入れる。

✓ フリーウェアの地図ソフトや、GIS ソフトを使って、マップ原稿を作成する。

※ これらのグッズは、所有者を仲間にするこことで使用可能となり、一緒にやるこことでノウハウも吸収できる。

※ QRコードを使えば、携帯地図サイトも使える



フットパスマップの作成

• その2 「マップ作りイベントの企画」

- ✓ 一般市民に参加してもらうことにより、出来たマップに愛着と思い入れを持ってもらう。
- ✓ グループごとに担当エリアを分担することで、少ないスタッフでも、広い範囲を調査できる。
- ✓ 参加者アンケートをとることにより、一般市民が「何を求め」「何に感動する」かのリサーチを兼ねることが出来る。

フットパスマップの作成

• その3 「マップ作りイベントの準備」

✓ 一般参加者用のグループ用準備グッズ

- 書込み用の地図、画板orボード、参加者アンケート。

✓ 一般参加者・スタッフの個人持参グッズ

- 筆記具、メモ帳、カメラ等、長距離を歩くために必要な装備、食料・飲料、ゴミ袋。

✓ スタッフの準備グッズ

- デジカメ(ビデオ)、GPS、拡声器、スタッフ用書込み地図。

フットパスマップの作成

• その4 「マップ作りイベントのポイント」

✓ 景観のデータ

- 地形・景色、道の状況、景観阻害要因、案内板の必要箇所、ルール作りが必要な場所、危険箇所、駐車スペース、バス停、トイレ、自販機・店舗。

✓ 感動ポイント

- 生きもの、体験、見所、史跡、社、食、地場産品直販、温泉、その他。

✓ エリアのテーマ設定

- 田園、畑、小川、川、林、社、食、風景、匂い…等、地域の素材をベースに、ルートやキャッチフレーズを考えてもらう。



いったい誰が片付けるの？

来訪者はこれを見て
何を感じるのだろうか？

こんなところで作られた
農作物を買う気になるだろ
うか？

キーワードは

気づき

自分の足で歩き、発見していくこと

。

よみ者の目線から学ぶこと

フットパスマップの活用

- 行政機関のHPを活用したPR
- 地元商店・地元温泉・直販所に置いてもらう。
 - ※印刷は行政機関のコピーもしくはプリンターを使わせてもらう。
- FMいるか等の報道機関に取り上げてもらう。
- 地元イベント等に活用してもらう。
 - ※この地域に愛着を持ってもらうことがテーマ

※作製した地図は使用許諾が必要な場合があるので、デフォルトの地図を自作するのが良いでしょう

キーワードは

思い入れ

人が再訪するのは愛着と思い入れがあるから…

コース整備

- **その1 「材料や道具の準備と手続き」**
 - ✓ 間伐材や条件の良い廃材を提供してもらう。
 - ✓ 加工・製作は、匠の森研修センターに協力してもらい、木工芸室を使って実施する。
 - ✓ 設置箇所で使用する道具類は、市役所、渡島支庁・土木現業所、開発建設部等に協力してもらう。
 - ✓ 設置に際しては、地権者への十分な説明 及び 承諾が必要。

コース整備

• その2 「コース整備イベントの企画」

- ✓ 一般市民に参加してもらうことにより、出来たマップに愛着と思い入れを持ってもらう。
- ✓ グループごとに担当エリアを分担することで、少ないスタッフでも、広い範囲を整備できる。
- ✓ イベントの実施 及び 案内板の設置に際しては、事前に地権者の承諾をとっておくこと。
- ✓ メンテナンスについては、ボランティアスタッフのほかに、地権者の協力も仰ぐこと。

コース整備

• その3 「コース整備イベントの準備」

✓ 一般参加者用のグループ用準備グッズ

➤案内板、スコップ、設置位置の地図。

✓ 一般参加者・スタッフの個人持参グッズ

➤メモ帳、軍手、汚れても良い服装、食料・飲料。

✓ スタッフの準備グッズ

➤デジカメ(ビデオ)、GPS、拡声器、スタッフ用書込み地図、輸送用トラック。

コース整備

- **その4 「コース整備イベントのポイント」**
 - ✓ **一般参加者によるロケハン**
 - 地形・景色、道の状況、提供すべき情報の把握。
 - ✓ **匠の森研修センター木工芸室**
 - ロケハンのデータを基に 案内板を作成する。
 - 地権者の迷惑にならないよう、景観に配慮したものとする。
 - ✓ **案内板の設置**
 - 材料・道具、運搬車両については、行政機関の協力を取り付ける。
 - ※予算執行が伴わないよう、現物で協力してもらうことで、行政機関が協力しやすい状況を作る。

キーワードは

気軽

心の重しにならないようにすること…

まとめ

- **まずは出来ることからやってみましょう**
- **ダメなら別の方法でアプローチしましょう**
- **お金をつぎ込むと後戻りできません**
金をかけるときは後戻りしない覚悟を決めてからにしましょう
- **出来たものに愛着を持つためには**
自分の出来る範疇で
主体的に参画することです